

研究ノート

図書館は生活の中でどのように描かれたか

—絵本に描かれる図書館 4—

Imagery of Libraries in Everyday Life

—Libraries on Picture Books 4—

村主千賀*

Chika MURANUSHI

キーワード：図書館 絵本 図書館利用

Key Words : library, picture book, library use

要約

本研究では、日常生活に位置づけられた図書館利用、図書館への訪問が絵本においてどのように描かれているかを考察する。図書館を描いている絵本の中には、特別なニーズがなくとも、自発的な図書館利用でなくとも、人々は図書館に触れる機会があることを描くものがある。そのような絵本によって、生活の中で図書館の位置づけを子どもたちが知る契機となることを述べる。

Abstract

Analyzing picture books about libraries, this study focuses on how and when people use and visit libraries in everyday life in those stories. In some picture books, people go to the library, even if they don't have special needs or reasons for a visit. Through the analysis, these picture books can give children an opportunity for knowing how important libraries are in everyday life.

1 研究の背景

これまで筆者は、絵本に描かれた図書館について多様な観点から検討し、研究対象とした絵本について、図書館の取り上げ方や、伝えようとしている事柄などの枠組みを論じてきた（村主 2017、2018、2019）。絵本で図書館が描かれるパターンとして、図書館利用についての知識や技術、読書の楽しみを伝えることを意図するもの、単にファンタジー、フィクションの現場としての図書館、図書館に関する知識の伝達を意図せず、登場人物の日常生活の文脈のなかで図書館が登場

* 東海学園大学人文学部人文学科

するものがあった。

図書館に関する知識の伝達を意図したものを対象に、図書館リテラシーやマナーをどのように伝えているかを先行研究(村主 2018)で明らかにしたが、実際に行われる図書館利用教育では、ガイダンス、オリエンテーション、そしてそれぞれの発達であるとか学年など段階に応じた内容が扱われる。具体的には、初めの段階では、図書館には何があるか、どうやったら本が借りられるか、出来る事、出来ないこと、してはいけない振る舞い(マナー)などを伝え、図書館という施設、システムの利用方法を学ぶ。さらに図書館の活用内容として「本を読む」と「本で調べる」がある。「本で調べる」については、図書館を利用した課題解決が想定され、学校図書館では「調べ学習」が行われる。子どもにとって学校や図書館が主導する図書館利用教育は「教育」や「学習」という文脈の中に埋め込まれていることが多い。しかし、学校の学習の中で設定された課題だけが、課題解決のシチュエーションではない。だからこそ、普段の生活の中で「図書館へ」という発想が出来るように、早い段階から楽しみの中で図書館を知っていくメディアとして絵本の有用性を主張してきた。

図書館リテラシーを伝達することを意図する絵本では、主人公たちの問題解決プロセスが描かれる。課題解決もしくは問題解決手段として情報を求め図書館へ訪れている。図書館利用は、何らかのニーズ(needs)を動機として発生する行為である。ウィルソンは“人間は外部世界と関わる中でその人間にとって基本的なニーズである知的ニーズ、情緒的ニーズ、生理的ニーズを持つようになりそのニーズが結果として情報を求める行動を引き起こす”と指摘している(Wilson 1981)。実世界でも絵本の中においても、日常で起こるさまざまなニーズが情報によってのみ満たされるわけではない。たとえば「お腹が空いた」という生理的なニーズは食事をすることで満たされる。一方で、情報を得ることが必要とされる場合は情報ニーズが発生し、情報を獲得するプロセスが起こる。子どもの世界にとって学校で出された課題だけが情報ニーズになるわけではないし、楽しみや感動を得たいなどの情緒的なニーズが読書に向くこともあるし、それはレクリエーションで満たされることもある。その場所がたまたま図書館でありえることもあるし、そうでないこともある。

また、人が情報を求めるそのとき必ずしも情報の在り処は図書館とは限らない。人は記録資料よりは非記録資料に情報を求める傾向にある(長澤 1991)。情報探索の行動を起こすには多様な要素が相互作用する(Lancaster 1996)。人はまず身近なところに情報を求める。友人や家族など身近な人に聞くとか、自分の記憶をたどる。記録物の利用を思いつくと、手持ちのファイルを探す、身近な人の所有するものを頼る、書店に行く。多くの選択肢のなかでようやく図書館へやってくる。たとえ図書館を思いついても、場所が遠いとか使い方がわからないとかの様々な要因から利用しないことがある。

情報ニーズを満たすためだけに人は図書館へ行くわけではないことも自明である。実際に図書

館司書課程の授業において、毎年学生に「どのような時に図書館に行くか」と聞いているが、その答えは「時間があるから」図書館に寄るであるとか、待ち合わせに使うとか、トイレを借りるなど多様である。情報を求めたとしても、たまたま「図書館で聞いてみたら？」という他者の提案によって図書館を利用するなど、最初に「情報の利用」「図書館利用」「読書の欲求」が動機となっていない場合もある。

本研究では図書館利用を啓蒙的に積極的に伝達している絵本だけでなく、お話の中で、主人公の生活の中で、自然の振る舞いの中で図書館が描かれている作品を見ていく。あわせて図書館が主たる舞台ではないが、お話に登場する絵本にも触れる。そのようなお話を楽しむうちに、描かれた世界にある図書館に触れることで、「こんなとき」、「こんなふうに」図書館に行く、「こんなところに」図書館があるということを知り、図書館に親しむ機会となると考える。以下にお話のなかで、図書館はどのように登場し、それはどのような場所か、どう描かれたかを考察する。なお文中の（ ）で示す番号は末尾の図書館絵本のリスト番号である（表1）。

2 ニーズを満たす図書館

2.1 自主的に自発的に訪れる場所

図書館リテラシーとマナーに関する前著（2018 村主）で詳細に触れているが、『はちうえはほくにまかせて』（113）では、主人公トミーは夏休みに留守になる家の植物を預かって世話をするアルバイトを思いつく。その世話のために知識を得ようと図書館へ行く。与えられた課題ではなく情報が必要になったとき、自発的に図書館へ出向いている。そこで得た情報を活用し、預かった植物の世話にとどまらず、切った枝の挿し木で植物を増やしていく。さらにそれを小さな子に分けていくお話である。お話の中で主人公は既に図書館の利用習慣を身に着けている。

『風をつかまえたウィリアム』（74）はアフリカのマラウィにあった実話に基づいたお話である。貧しくて学校に行けなくなった少年が、通りの向こうに図書館があったことを思い出す。図書館は無料で知識を得られる場所である。はじめの動機は何かを調べるためという課題解決の場として図書館を利用してはいない。学校の代わりに図書館で知的好奇心を満たしていく。やがて少年は図書館で得た知識を家族のために実際に活かす行動にでる。廃品を利用して風車による発電機を作り、家に電気を灯す、水をくみ上げるポンプで畑を潤す。学ぶ場は学校だけではないし、本の中の知識は実生活に役立つことが見て取れる。

『月にとんだ猫』（90）ではかけがえの無い存在の猫「ヒメ」を失くす主人公を描く。主人公のほくが図書館へ行くのは「ヒメ」もしくは猫についての問題解決ではない。ヒメの帰らない夜に訪れたフクロウのことを図書館で調べる。フクロウが小動物を捕らえて食べるということを知ることと、帰ってこなかったヒメのこと、身の回りで起こった動物たちの生死の中でほくはそっと悟る。「フクロウの子どもの中によみがえる」と考えたり、窓の外の木の枝に来たリスの瞳の中に

ヒメを見出だす姿が描かれる。

主人公たちの様々な生活の中で、図書館を利用して得た事柄から、何が起こったのかということが、楽しく、時に切なく伝えられている。主人公は自らのなんらかのニーズに突き動かされ、その生活の中で図書館を訪れている。

2.2 他者からの示唆で訪れる場所

問題解決の方法としてはじめから図書館を思いつくわけではなく、困っていると誰かに「図書館へ行ったら」と言われて訪れる場合がある。情報を得ようとするとき、前述の通り、まず身近な人に聞いてみるというのは、絵本の中の行動でも見て取れる。

『コアラとお花』(77)では、お花を見つけたコアラがアナグマとアライグマにお花のことをあれこれ聞かすが、両者は知ったかぶりのために花は枯れてしまう。お花の作り方を聞いても二人は知らず失敗してしまう。コアラはお花のことを知るために出かけ、出会ったロバはお花の作り方は知らないが、「でも、わからないことがあったとき、いつもいくばしょがあるんだよ」とコアラを伴って図書館へ行く。コアラは図書館の本の多さと熱心に調べ者をするほかの動物たちの姿から「だれにでもしらないことがたくさんある」ということを知る。

『ほくムシになっちゃった』(123)は、朝起きたら虫になっていた小学生二年生のグレゴリーが、そのことについて唯一向き合ってくれた親友マイケルに促されて図書館で調べることにする。図書室へいく時間になって、グレゴリーは百科事典で「ムシ」の巻を選び、マイケルはムシについての本を選ぶ。そしてマイケルはグレゴリーがなんというムシかを突き止めてくれる。

『としょかんへいくピープちゃん』(103)では羊飼いのピープちゃんが迷子の羊を探している。途中で本を読むブルくんに出会い「そのほん、ひつじのさがしかた？」と聞く。「ちがうけど、さがしものなら、としょかんだ」とブルくんは答える。ピープちゃんは図書館へ向かう。ピープちゃんの解決すべき問題は「迷子の羊探し」であるが、「探し物は図書館」という発想を持つ友達がいる。

はじめから図書館を知らなくても、思いつかなくても(1)、誰かに話しかけると、そのうちの誰かが図書館へ導いてくれることがあるのである。また、そもそも課題がなくとも、身近な誰かに連れられて訪れることもある(2)(69)。情報などを欲してはいないが、手に入れてみると、新たにニーズとして自覚される場合もある。

3 場としての図書館

3.1 居場所としての図書館

図書館は時には、宿題をやるとか、本が読みたいという積極的な目的を明示せず、ただたどりで着く場所、ちょっと寄ってみる場所として描かれる。

草谷は『パパはジョニーっていうんだ』(114)では、図書館が“その一日の行動パターンの中に、しっかり組み込まれていた”と紹介している(草谷 2013)。ではどのように「組み込まれている」のか。描かれた「一日」は主人公ティムにとってはかけがえのない特別な一日で、両親の離婚によって離れて暮らす父親との面会の日である。二人で過ごす日の、父親が電車に乗って去るまでの少しの時間の過ごし方として「図書館」が出てくる。「図書館でもいこうか」という発想のもと、それが生活の要素として当たり前存在するからである。人々の生活圏には公園や他の商業施設など様々な場がある。お話の中でも実際にティムと父親は映画を見て過ごす。そして、その後図書館へ行くのである。なぜ図書館なのか。図書館で父親は雑誌をめくる。その横でティムは膝に本を抱えて座っている。親子が二人で静かにただ寄り添える場所は他にもあるだろう。たとえば公園のベンチはどうだろう。比べてみると、そこは天気や気温に左右されるが、図書館は暖かく涼しく、雨の心配のない場所でもある。食事のように「おおよその時間にしなければならないこと」や、映画のように上映時間に合わせなくとも、開館さえしていれば自由に出入りが出来て時間の制約がない。そして、何かをしなくても良い。開館時間の中でならいつからでも、居ただけいられる場所である。そこは二人にとっては寄り添って座って時間を過ごすことの出来る場所なのである。

もう一例あげると、『ほんをひらいて』(127)では、主人公ルイズへの呼びかけでお話は進む。お天気の悪い日に気分も暗くなるけど、それでもちょっと出かけようといざなう。そのうち晴れるといいながら、どんどん雨は強くなり、木陰は暗く、道端にハーモニカを吹く人がいたり、さびしい通りにさしかかったり、犬がうろついたり、廃品置き場や廃墟などを通り抜けていく。その過程は子どもにはちょっと怖く、表に出たら広い世界が待っていると誘いながら、進む道には楽しみはあまりない。どんどん雨が強くなり、とにかく「屋根のあるところ」を目指してたどり着くのが図書館である。実は本文にはひとことも「図書館」とは書かれてはいない。ただたどり着いた「屋根のあるところ」の中にはそびえる書架とぎっしりの本が描かれているばかりである。

人が主人公ではないが、『ごほん!ごほん!ごほん!』(80)では、牧場で退屈をしている動物たちが「もう うんざり! することを さがしに まちに いくわ」と出かけていくお話である。出かけていった先に図書館があり、図書館の中を見てめんどりが「みて!みんなしあわせそう ここが さがしていたばしょよ。することが みつかるか みてくるわ」と言う。また、居場所をもとめてさまよいたどりつく(16)場所としても描かれる。

図書館は、図書館を利用する目的はないが、何かすることを探したり、居場所をもとめてたどり着く場所。図書館は「そこにある」からたどり着ける場所、居ただけ居られる場所、本を借りたり読むことが第一の目的でなくとも、大事な居場所となる。

3.2 街、生活の構成要素としての図書館

Lost! (26) では主人公は街で迷子のクマと出会い、クマの住んでいた木のたくさんある場所へ戻れるようにそこら中を探し回る。そしてライオンの像の前で「そうだ、図書館を試してみよう、そこでは何でもみつけれられるんだ」と主人公は言う。高層ビルや遊覧船、公園や遊園地、訪れるさまざまな場所の中に図書館が出てくる。主人公は図書館がどのような場所で何が出来るかを知っており、写真、地図からクマの森を見つけることが出来る。お話の結末は森へおくっていくことは出来るが、今度は主人公が森で迷子になって、クマがまた街へ送ろうとするところで終わる。

『ふしぎなおたまじゃくし』(117) では謎のおたまじゃくしのアルフォンスが成長しすぎて、飼育場所を求めルイスはあれこれ奮闘するが、とうとう飼う場所が見つからない。困って帰る途中で「としょかんで はたらいている なかよしの シーバースさん」と会い、彼女の助けを借りてアルフォンス用のプールを作ることが出来る。ルイスはおたまじゃくしの飼い方を図書館で調べたわけではない。司書のシーバースさんの知恵を借り、図書館の資料も使い、沈没船から得た財宝を得てプールを作るのである。ルイスには仲良しの司書がいた、ということは普段の生活で図書館がとても身近だということである。

『王国のない王女のおはなし』(67) で、ある日王女が新聞を読むために図書館に立ち寄ったという一節がある。図書館も新聞を読む姿も描かれていないが、王女は新聞でその日、その国の王子が国王になると知り戴冠式に駆けつけることにする。このことは大きな意味を持つ。王国を持たず、馬車で移動し続けている王女にとって、図書館はニュースを得るための場所である。図書館は行った先々のことを知ることが出来る場所なのである。

『ぼくのアフリカ』(120) は、アフリカの中の大都会で暮らすアシュラフが、本の中でアフリカの大自然や動物に触れるお話である。図書館へ行く道はアシュラフにとって慣れた道で、賑わう人々の様子、多くの車、狭い路地、不思議なものを売る商店のウィンドウ、果物屋、市場を抜けた先のストリートミュージックやダンス、その喧騒の先にあるのが図書館である。図書館員のマッケンジーさんが「ぼくが なにを いいですか わかっているのです」という記述からは、アシュラフがどれほど図書館になじんでいるのか、通っているのかが見て取れる。

『ヒラリーとライオン』(116) では、主人公ヒラリーは図書館を図書館として訪問してはいない。迷子になって少し高いところから通りを見渡そうとしたとき、目に入る図書館。図書館がその街のランドマークとなっている。まず図書館の階段、そしてライオン像に登る。ライオン像が2つ、玄関に描かれるだけで、そこがニューヨーク公共図書館であることが分かる。図書館の資料はヒラリーを助けはしないが、二頭のライオンが迷子のヒラリーをホテルまで送り届ける、その道すがら、ニューヨーク中をヒラリーに見せていく。「困ったときには図書館へ」という精神、図書館がどういう存在かの暗示ととらえることが出来る。

歩き回るとちょうど図書館があったり、司書にであったり、ついでに寄ったり、しょっちゅう訪れたりする場所であったりするのは、生活圏である街と暮らしの中に図書館が根付いているからである。また、図書館自身が街を象徴する存在であったりもする。

3.3 集合場所としての図書館

図書館で本を読むとか、借りるといような行動を特にせず、みんなが集まる場所になることがある。

『道はみんなのもの』(130)では、遊び場をなくした子どもたちの様子が描かれる。学校が終わると子どもたちは図書館に集まる。しかし、図書館にはゲームや本、粘土などの楽しみはあるものの、お店屋さんごっこ、サッカーや野球をする場所がないため、外に出て道で遊ぶしかなかった。道で遊ぶことは、大人たちの生活にとっては邪魔になり子どもたちは図書館の階段へ集まる。子どもたちの様子を見て司書が声をかける。遊び場が必要なことなど子どもたちの状況を聞き、司書は図書館の中に招き入れる。子どもたちは市長に遊び場となる公園を作ってもらう請願をするための相談をする。子どもたちは横断幕を作ることにするが、その製作場所を図書館は提供している。

『坂の街のケーブルカー』(82)(89)^{註1}はサンフランシスコを舞台にした、ケーブルカーの廃止反対運動についての絵本である。ケーブルカーの廃止の話が持ち上がったとき、ケーブルカーの存続を願う人たちが集会を開く場所として図書館が描かれる。絵の中には「サンフランシスコ市立図書館」と図書館名が描かれている。また、*Hands Around the Library* (15)で描かれるように、図書館そのものを守るために人々が集うこともある。

市民が問題を共有し集う場所として図書館が選ばれるのは、公共の場、差別がなく、誰もが訪れることを許されている場所、文化を育む場所として象徴的な場であるからであろう。

3.4 働く場としての図書館

Red light, Green Light, Mama and Me (43) (邦訳『ママのとしょかん』(128))では、主人公リジーはカラフルな街の朝の喧騒をぬけて、ママの出勤に同行する。ママの勤務先は図書館である。ママの仕事を通してリジーは図書館を知っていく。

Miss Rumphius (34) (邦訳は『ルピナスさん』(135))の主人公は多くの夢とおじいさんとの約束を胸に成長し、図書館で働き出す。やがて図書館を出て世界を旅し、おじいさんとの約束の一つ「世界をもっとうつくしくするために」ルピナスを植え続けるお話である。一人の女性のキャリアの一部に図書館がある。本好きの主人公が司書になる夢を実現するお話(35)では、図書館のない田舎で、図書館活動をはじめ、ブックモバイルで本を届ける姿が描かれる。

図書館にはそこで働く人たちがおり、もしかしたら、それは家族や知人であるかもしれない

(76)。利用者として図書館を訪れるのではなく、誰かの職場として図書館を知ることもある。

4 まとめ

絵本を通じた図書館へのアプローチは多様である。これまでの研究で明らかにしてきたが（村主 2017、2018、2019）、絵本の中の図書館はファンタジーの世界の入り口であり、読書の楽しみを満たす場所であり、その利用には少しの知識と技術、マナーやルールが必要なことを伝えている。また、図書館では、人だけでなく、ロボットやエイリアン、動物やお化けや恐竜など多様なものが登場し、図書館を利用したり、思い思いに活動したり、様々に描かれる。その際、登場人物に解決すべき課題を設定して図書館を利用させるものがある。一方で、本研究で注目したように、その登場人物の日常の暮らしの中で、ごく自然のふるまいの中で図書館を訪れたり、その街を構成する要素として、図書館が描かれたりすることがある。

- ・街の様子と、その中にある図書館
- ・生活の中で特別な行動でなく、自然と足を向ける図書館
- ・誰かが、教えてくれたり、連れて行ってくれたりする図書館
- ・皆が集まる場としての図書館
- ・働く場所としての図書館

このようなお話を通じて生活の文脈に埋め込まれた図書館を知ることが出来る。たとえ本を読まなくても、調べ物をしなくても、人が寄り添い、集い、ふと見上げるとある場所、「居場所」としてたどり着く場所として、図書館がその暮らしの要素として取り込まれていくことを期待する。絵本の表現を通して学校の課題と紐付けされた図書館でなく（それが学校図書館であろうと、公共図書館であろうと）、生活の中、街の中に「そこにあるもの」として、より身近なものとして触れていく契機とすることが出来ると考える。

最後に図書館絵本のリストを付する。本リストはこれまでの研究を通して、絵本を利用出来ることを前提に、和洋、新刊、中古を問わず市場にあり入手可能なものを対象に収集したものである（表1）。なお表末尾には、これらは絵や写真が多用される大型本で、絵本のような体裁ではあるが、お話を中心とした絵本ではなく、便覧やワークブックに類するものを別にナンバリングして記した。

文献リスト

- Lancaster, F.W. Warner, A.J. *Information Retrieval Today*. 1993. Information Resources Press. 341p.
- Wilson, T.D. "On user studies and information needs". *Journal of Documentation*, Vol. 37, no.1, p.2-15 (1981)
- 草谷桂子. 2013. 絵本は語る：はじまりは図書館から. こどもの未来社. 141p.
- 村主千賀. 2017. 絵本に描かれる図書館. 東海学園大学研究紀要人文科学研究編, 22. p.91-106
- 村主千賀. 2018. 絵本の中の図書館リテラシーとマナー：絵本に描かれる図書館2. 東海学園大学研究紀要人文科学研究編, 23. p.107-120
- 村主千賀. 2019. 韓国の絵本の中の図書館：絵本に描かれる図書館3. 東海学園大学研究紀要人文科学研究編, 24. p.111-120
- 長澤雅男, 石黒裕子. 2010. 問題解決のためのレファレンスサービス. 日本図書館協会 294p.

注1 『坂の街のケーブルカーのメイベル』(82)と『小さいケーブルカーのメープル』(89)はMAYBELL *The Cable car* Virginia Lee Burton 作(1952)年を原著にした絵本で、それぞれ訳者がことなり、読者対象年齢が異なる。(89)は資料本体に「よんであげるなら4才」と表紙裏に対象年齢を明記し、全国学校図書館協議会選定、日本図書館協会選定、厚生省中央児童福祉審議会特別推薦を受けている。

表1. 図書館・図書館員が描かれる絵本

No	Title	Author	Illustrator	Translator	Year	Publisher	冊数
1	A library book for Bear	Becker, Bonny	Denton, kady MacDonald		2014	Candlewick Press	1
2	Beatrice Doesn't Want to	Numeroff, Laura	Munsinger, Lynn		2008 1981	Candlewick Press	
3	Bob the Alian Discovers the Dewey Decimal System	Donovan, Sandy	Haake, Martin		2010	Picture Window Books	2
4	Brother Hugo and The Bear [ユージ修道士と本を愛しすぎたクマ]	Beebe, Taty	Schindler, S.D	千葉茂樹	2014	Eerdmans Books for Young Readers	3
5	Corduroy goes to the Library	Freeman, Don	Macue, Lisa		2005	Viking (PenguinGroup)	
6	D.W.'s Library Card	Brown, Marc			2012	Little, Brown and Company	
7	Delilah D at the Library	Willis, Jeanne	Reeve, Rosie		2006	Clarion Books	
8	Dinosaur vs. The Library	Shea, Bob	Shea, Bob		2011	Diseney	
9	Do NOT Bring Your Doragon to the Library	Gassman, Julie	Elkertton, Andy		2016	Picture Window Books	4
10	Do You Know Dewey?	Cleary, Brian P.	Low-Veriethoff, J		2013	Millbrook Press	5
11	Fiction or Nonfiction	Miller, Shannon M	Durst, Kathryn	(音楽)Arrow Emily	2018	Cantata Learnig	6
12	Find a Book	Miller, Shannon M	Durst, Kathryn	(音楽)Arrow Emily	2018	Cantata Learnig	7
13	Froggy Goes to the Library	London, Jonathan	Remkiewicz, Frank		2017	Puffin Books	8
14	Goldie Socks and the Three Librarians	Hopkins, Jackie Mims	Mandders, John		2007	UpstartBooks	9
15	Hands Around the Library	Roth, Susan L / Abouraya, Karen Leggett	Roth, Susan L.		2012	Dial books for Youg Readers	10
16	Homer The Library Cat	Lindbergh, Reeve	Wilsdorf, Anne		2011	Candlewick Press	11
17	I know a Librarian who Cewed an Word	Knowlton Laurie Lazzaro	Leonard, Herb		2012	Pelican	12
18	I Took My Frog to the Library	Kimmel Eric A.	Sims, Blanche		1990	Puffin Books	13
19	I.Q goes to the library	Fraser, Mary Ann			2010	Houghton Mifflim	
20	If you Ever want to Bring a Circus to the Library, Don't	Rarsley, Elise			2017	Litte Brown and campany	14
21	It's Library Day	Stoeke, Janet Morgan			2008	Dutton Childrens's Books	
22	Librarian on the Roof : A True Story	King, M.G	Gilpin, Stephen		2010	Albert Whitman & Campany	15
23	Library Lil	Williams, Suzanne	Kellogg, Steven		1997	Puffin Books	16
24	Library Lion [としょかんライオン]	Knudsen, Michelle	Hawkes, Kevin	福本友美子	2006	Walker Books (Candlewick Press)	17
25	Lola at the library	MacQuinn, Anna	Beardshaw, Rosalind		2006	Charlesbrige	18
26	Lost!	McPhail, David	McPhali, David		1990	Little, Brown and Company	
27	Madeline Finn and the Library Dog	Papp, Lisa			2016	Peachtree Publishers	19
28	Maisy goes to the library	Cousins, Lucy	Cousins, Lucy		2005	Walker Books	
29	Manners in the Library (Library Skills)	Miller, Shannon M	Durst, Kathryn	(音楽)Arrow Emily	2018	Cantata Learnig	21
30	Manners in the Library (Way to be: Manners)	Finm, Carrie	Lensch, Chris		2007	Picture Window Books	20
31	Manners with a Library Book	Tourville, Amanda Doering	Lensch, Chris		2009	Picture Window Books	22
32	Miss Brooks Loves Books(and I Don't)	Bottner, Barbara	Emberley, M		2010	Alferd A Knopf	23
33	Miss Moore Thought Otherwise [図書館に児童室ができた日]	Pinborough, Jan	Atwell, Debby		2013	Houghton Mifflin Harcourt Publishing	
34	Miss Rumphius [ルピナスさん]	Cooney, Barbara			1985	Puffin Books (Penguin 1982)	
35	Miss Dorothy and Her Book Mobile	Houston, Gloria	Lamb, S. Condie		2011	Harper Collins Publisher	24
36	Never Let a Ghost Borrow Your Library Book	Casale, Karen	Rebora, Cecilia		2012	UpstartBooks	25
37	No Pirates Allowed Said Library Lou	Greene, Rhonda, G	Ajhar, Brian		2013	Sleeping Bear Press	
38	No T-Rex in the Library	Buzzeo, Toni	Yoshikawa, Sacihko		2010	Margaret K. McElderry Books	26
39	Our Librarian won't Tell us Anything!	Buzzeo, Toni	Yoshikawa, Sacihko		2006	UpstartBooks	27
40	Penelope Popper: Book Doctor	Buzzeo, Toni	Christy, Jana		2011	UpstartBooks	28
41	Pirates in the Library	Ali, Nadia	Tebbit, Jake		2016	StarBright Books	
42	Please Bury Me in the Library	Lewins, J. Patric	Stone, Kyle M.		2005	GulliverBooks Harcourt Inc	
43	Red Knit Cap Girl and the Reading Tree	Stoop, Naoko	Stoop, Naoko		2014	Little, Brown and Company	

44	Red light, Green light, Mama and Me (ママのとしょかん)	Best, Cari	Daly, Niki	藤原宏之訳	1995	Orchard Books	
45	Return of the Library Dragon	Deedy, Carmen Agra	White, Michael P.		2012	Peachtree Publishers	29
46	Splat the Cat and the Late Library Book	Meister, Gari	Eberz, Robert		2016	Haper Collins Publisher	
47	Staying Safe Online	Miller, Shannon M	Durst, Kathryn	(音楽)Arrow Emily	2018	Cantata Learnig	30
48	The Best Book to Read	Bertram, Debbie; Bloom, Suzan	Garland, Michael		2008	Dragonfly Books	31
49	The Boy who was Raised by Librarian	Morris, Carla	Sneed, Brad		2007	Peachtree Publishers	32
50	The Ink Garden of Brother Theophane	Millen, C.M.	Wisnewski, Andrea		2010	Charlesbridge Pub	
51	The INSIDE-OUTSIDE Book of Libraries	Cummins, Julie	Munro, Roxie		1996	Dutton Childrens's Books	
52	The Librarian from the Black Lagoon	Thaler, Mike	Lee, Jared		1997	Scholastic inc	
53	The Library Doors	Buzzeo, Toni	Westcott, Nadine Bernard		2008	UpstartBooks	34
54	The Library Dragon	Deedy, Carmen Agra	White, Michael P.		1994	Peachtree Publishers	
55	The Library Gingerbread Man	Enderle, Dotti	Madden, Colleen M.		2010	UpstartBooks	
56	The Library Page	Morton, Carlene	Docampo, Valeria		2010	UpstarBooks	
57	The Library (エリザベスは本の虫)	Stewart, Sarah	Small, David		1995	Square Fish	33
58	The Not So Quiet Library	Ohara, Zachariah			2016	Daial Books for Young Readers	35
59	The Shelf Elf	Hopkins, Jackie Mims	Thornburgh, Rebecca		2004	UpstartBooks	36
60	Waiting for the Biblioburro 〔こないかなロボのとしょかん〕	Brown, Monica	Parra, John	齋藤規	2011	Trycycle Pess	
61	When the Library Lights Go Out	McDonald, Megan	Tillotson, Katherine		2005	A Richard Jackson Book	
62	あこがれうちゅうひこうし	ミケラ・マンティン	ジョー・イワーズ	しばたよういち	1994	フレーベル館	37
63	アンディとライオン	ジェイムズ・ドーハティ	ジェイムズ・ドーハティ	村岡花子	1961	福音館書院	38
64	ウィリーはとくべつ	ノーマン・ロックウェル		谷川俊太郎	1995	紀伊国屋書店	
65	うみのどうぶつとしょかんせん	菊池俊	こばようこ		2012	教育画劇	39
66	エリザベスは本の虫	サラ・スチュワート	ディビッド・スモール	福本友美子	2003	アスラン書房	
67	王国のない女王のおはなし	アーシュラ・ジョーンズ	サラ・ギブ	石井睦美	2011	BL 出版	
68	おさるのジョージとしょかんのおしごと	マーガレット・レイ/ ンスアウグスト・レイ		北山めぐみ	2013	金の星社	40
69	おさるのジョージとしょかんへいく	マーガレット・レイ/ ンスアウグスト・レイ		福本友美子	2006	岩波書店	41
70	おぼけとしょかん	デイヴィッド・メリング		山口文生	2005	評論社	
71	おぼけのマルとみんなのとしょかん	けーたろう	なかいれい		2015	中西出版	42
72	おんちゃんは車いす司書	梅田俊作	梅田俊作	河原正実(原案)	2006	岩崎書店	
73	カエサルくんと本のおはなし	いけがみしゅんいち	せきぐちよしみ		2015	福音館書院	43
74	風をつかまえたウィリアム	ウィリアム・カムクワン/ ブライアン・ミラー	エリザベス・ズーノン	さくまゆみこ	2012	さ・え・ら書房	44
75	カモシカとしょかん	魚背ゆう子	水上悦子		2009	桂書房	45
76	きんぎょ	ユ・テウン		木坂涼	2009	らんか社	46
77	コアラとお花	メアリ・マーフィー		ひだみよこ	2001	ポプラ社	
78	コウモリとしょかんへいく	ブライアン・リース		さいごうようこ	2011	徳間書店	47
79	こないかなろぼのとしょかん	モニカ・ブラウン	ジョン・バッラ	斉藤規	2012	新日本出版	48
80	ごほん!ごほん!ごほん!	デボラ・プラス	ティファニー・ピーク	おがわひとみ	2005	評論社	49
81	ごめんなさいフォリオさん	ジョー・ファルダード	フレデリック・ジョー	とりごえしん	1987	ブックローン	
82	坂の街のケーブルカーのメイベル	バーニャー・バートン		秋野翔一郎	2011	童話館出版	
83	さみしかった本	ケイト・バーンハイマー	クリス・シーバン	福本友美子	2013	岩崎書店	50
84	3万冊の本を救ったアリーヤさんの大作戦	マーク・アラン・スタマティ		徳永里砂	2012	国書刊行会	51
85	しずかに こほはどうぶつのとしょかんです	ドン・フリーマン		なかがわちひろ	2008	BL 出版	52
86	ステラのえほんさがし	エルンスト, リサ, キャンベル		藤原宏之	2006	童心社	53
87	スミス先生とおぼけ図書館	マイケル・ガーランド		山本敏子	2011	新日本出版社	
88	大草原のとしょかんパス	岸田純一	梅田俊作		1996	岩崎書店	54
89	ちいさいケーブルカーのメーベル	バーニャー・バートン		かつらゆうこ いしいいももこ	1980	ペンギン社	
90	月に飛んだ猫	森津和嘉子	森津和嘉子		1996	文溪者	
91	翼の時間	東逸子			1995	ミキハウスの絵本	55
92	ティモシーとサラ ちいさな としょかん	芭蕉みどり			2015	ポプラ社	56
93	図書館だいすきーメキシコ	デルマタ・アビレス	デルマタ・アビレス	清水透	1996	蝸牛社	57

94	としょかんたんていゆめきちくん	J-B・パロニアン	L.L. アファノ	佐藤見果夢	1999	評論社	58
95	図書館に児童室ができた日：アン・キャロル・ムーアの物語	ジャン・ピンボロー	デビー・アトウェル	張替恵子	2013	徳間書店	59
96	としょかんねこデューイ	ヴィッキー・マイロン/ ブレット・ウィター	スティーヴ・ジェイムズ	三木卓	2012	文化出版局	60
97	としょかんねずみ 1	ダニエル・カーク		わたなべてつた	2012	瑞雲舎	61
98	としょかんねずみ 2	ダニエル・カーク		わたなべてつた	2012	瑞雲舎	62
99	としょかんねずみ 3	ダニエル・カーク		わたなべてつた	2013	瑞雲舎	63
100	としょかんねずみ 4	ダニエル・カーク		わたなべてつた	2014	瑞雲舎	64
101	としょかんねずみ 5	ダニエル・カーク		わたなべてつた		瑞雲舎	65
102	としょかんへいく	ローレンツ・パウリ	カトリーン・シェーラー	若松宣子	2013	ほるぶ社	66
103	としょかんへいくピープちゃん	クレシッド・コーウェル		佐藤見果夢	1999	評論社	67
104	としょかんへいこう	斉藤洋	田中六大		2015	講談社	68
105	としょかんへびよん!びよん!びよん	アニー・シルヴェストロ	タチアナ・スイニウイス	福本友美子	2017	絵本塾出版	
106	としょかんライオン	ミシェル・スワードセン	ケビン・ホークス	福本友美子	2007	岩崎書店	
107	図書館を心から愛した男：アンドリュウ・カーネギー物語	アンドリュウ・ラーセン	カティ・マレー	志多田静	2017	六耀社	
108	トマスと図書館おのおねえさん	パット・モーラー	ラウル・コーン	藤原宏之	2010	さ・え・ら書房	70
109	トリケラととしょかん	五十嵐美和子			2013	白泉社	71
110	にんじんばだけのパピペペボ	かこさとし	かこさとし		1973	偕成社	
111	ぬいぐるみおとまりかい	風木一人	岡田千晶		2014	岩崎書店	
112	バスラの図書館員：イラクで本当にあった話	ジャネット・ウインター		長田弘	2006	晶文社	72
113	はちうえはほくにまかせて	ジーン・ジョン	マーガレット・ブローイ・グレアム	もりひさし	1987	ペンギン社	73
114	パパはジョニーっていうんだ	ポー・Rホルムベルイ	エヴァ・エリクソン	ひしきあきらこ	2002	BL 出版	
115	ビバリーととしょかんへいく	アレクサンドラー・スタッドラー	アレクサンドラー・スタッドラー	まえざわあきえ	2003	文化出版局	74
116	ヒラリーとライオン	フランク・デイサイクス	デビー・デューラン	たかはしたいすけ	1992	セーラー出版	
117	ふしぎなおたまじゃくし (1980年の復刊)	ステイブ・ケロッグ		すずきまさこ訳	2001	鏑といるか社	
118	ページマスター リチャードの図書館大冒険	デイブ・グレッグ	デイブ・グレッグ	唐沢則幸	1995	フレーベル館	75
119	ぼくが一番望むこと	マリー・プラットリー	クリス・K・スーンビート	斉藤規	2010	新日本出版	76
120	ぼくのアフリカ	イングリッド・メンネン/ニキ・ダリー	ニコラース・マリツ	わたなべしげお	1993	富山房	
121	ぼくの図書館カード	ウィリアム・ミラー	グレゴリー・クリステイ	斉藤規	2010	新日本出版	77
122	ぼくのブック・ウーマン	ヘザー・ヘンソン	デイビッド・スモール	藤原宏之	2010	さ・え・ら書房	78
123	ぼくムシになっちゃった	ローレンス・デイヴィッド	デルフィーン・デューランド	青山南	2002	小峰書店	
124	ポチポチのととしょかん	川井ゆり子			2003	文溪堂	79
125	本、だーいすき!	ジュディ・シエラ	マーク・ブラウン	山本敏子	2013	新日本出版	80
126	ほんちゃん	スギヤマカナヨ			2009	偕成社	
127	ほんをひらいて	トニ・モリスン/スレイド・モリスン	シャドラー・ストリックランド	さくまゆみこ	2014	ほるぶ社	81
128	ママのととしょかん	キャリ・ベスト	ニッキ・デイリー	藤原宏之	2011	新日本出版	82
129	みさきめぐりとととしょかんバス	松永伊知子	梅田俊作		1996	岩崎書店	83
130	道はみんなのもの	クルーサ	モニカ・ベルト		2013	さ・え・ら書房	84
131	もりのととしょかん	ふくざわゆみこ	ふくざわゆみこ		2017	学研プラス	
132	山のととしょかん	肥田美代子	小泉るみ子		2010	文研出版	85
133	よるのとととしょかん	カズノコハラ		石津ちひろ	2013	光村教育図書	86
134	よるのとととしょかんだいぼうけん	中村李衣	北村裕花		2015	BL 出版	87
135	ルピナスさん	バーバラ・クーニー		かけがわやすこ	1982	ほるぶ社	
136	ろばのとととしょかん	ジャネット・ウインター	ジャネット・ウインター	福本友美子	2011	集英社	88
137	ライオンのみみつ	マーガレット・ワイルド	リトバ・ポウティラ	木坂涼	2014	国土社	
138	わたしのとくべつな場所	パトリシア・マキサク	ジェリー・ピンクニー	藤原宏之	2010	新日本出版	89

	便覧・ワークブック類					
1	集めた情報をまとめよう (情報名人になろう 3)	堀田龍也 (編)	安土じょう		2001	汐文社 92
2	調べるためのアイデアガイド (情報名人になろう 1)	堀田龍也 (編)	安土じょう		2001	汐文社 90
3	図書館 (校外学習 暮らしをまもる・くらしをささえる 20)	秋山滋	かどたりつこ		2001	岩崎書店
4	図書館ってすごいな (わくわく図書館 5)	笠原良郎・紺野順子	写真と絵		2010	アリス館 110
5	図書館ってどんなところ (わくわく図書館 2)	紺野順子	こばようこ		2010	アリス館 107
6	図書館ってどんなところなの (図書館へいこう 1)	赤木かん子	すがわらけいこ		2007	ポプラ社 97
7	図書館で調べよう (わくわく図書館 3)	紺野順子	こばようこ		2010	アリス館 108
8	図書館のはじまり・うつりかわり (図書館のすべてがわかる本 1)	秋田喜代美	写真と絵		2012	岩崎書店 102
9	図書館のひみつ	高田高史	写真と絵		2016	PHP 研究所 98
10	図書館の役割を考えてみよう (図書館のすべてがわかる本 2)	秋田喜代美	写真と絵		2012	岩崎書店 103
11	図書館へいこう: 図書館クイズ1 知識と情報の宝庫 = 図書館活用術	五十嵐絹子 (編)			2007	国土社 95
12	図書館へいこう: 図書館クイズ2 魅力的な図書館委員会の活動・図書館行事のアイデア集	五十嵐絹子 (編)			2011	国土社 96
13	図書館の達人! 本の探し方がわかる事典: 調べるのがおもしろくなる	金中利和	写真: 国際ことも図書館		2007	PHP 94
14	としょかん町のバス	よこやますみよ (監修)	イクタケマコト		2019	少年写真新聞社
15	図書館ラクダがやってくる	マーグリート・ルアーズ		斉藤規	2010	さ・え・ら書房 69
16	図書館をもっと活用しよう (図書館のすべてがわかる本 4)	秋田喜代美	写真と絵		2013	岩崎書店 105
17	日本と世界の図書館を見てみよう (図書館のすべてがわかる本 3)	秋田喜代美	写真と絵		2013	岩崎書店 104
18	パソコンなどを使って調べよう (情報名人になろう 2)	堀田龍也 (編)	安土じょう		2001	汐文社 91
19	ハルモニの図書館さんぽ	ソン・ヨンスク・みせけい			2018	玉川大学出版
20	ホームページなどで発表しよう (情報名人になろう 4)	堀田龍也 (編)	安土じょう		2001	汐文社 93
21	ほんで調べてほうこくしよう	赤木かん子	mitti		2011	ポプラ社 111
22	本と図書館の歴史	モーリー・サワ	ビル・スレイヴイン	宮木陽子 / 小谷正子	2010	西村書店 99
23	本の声を聞きました (いこうよがっこう としょかん 2)	よこやますみよ (監修)	ささきみお		2019	少年写真新聞社
24	本のせかいへ (わくわく図書館 1)	笠原良郎	太田大八		2010	アリス館 106
25	本のれきし 5000 年	辻村益朗			1989	福音館書院 100
26	本はこうしてつくられる	アリキ		松岡亨子	1991	日本エディター すくルール出版
27	ほんはどうやって探したらいいの (図書館へいこう 2)	赤木かん子	すがわらけいこ		2007	ぽぷら社 101
28	ほんはまっていますのぞんでみます	かこさとし	かこさとし		2017	復刊ドットコム
29	みんなまってるよ (いこうよがっこう としょかん 1)	よこやますみよ (監修)	青山ゆういち		2019	少年写真新聞社
30	夢の図書館 (わくわく図書館 4)	笠原良郎	いとうみき		2010	アリス館 109

* 右端の no は村主 2018 に掲載されたリスト番号である